

<平成27年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

高崎市立入野中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 協 力** : 公益財団法人 JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成27年4月～平成28年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 30校程度
- 地 域** : 関東近郊及びJOCパートナー都市の中学校を基本とする
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場した経験等を通して、国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を自身の体験をもとに分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に生かせるような学習内容

座学の時間

挨拶（5分）

自己紹介（5分）

オリンピックの話（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



座学での学習内容の
確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験
に基づく「オリンピックの
価値」等について話す



グループ（個人）ワーク
発表も行う



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

- 期 日 : 平成27年10月16日 (金)
- 場 所 : 高崎市立入野中学校
- ク ラ ス : 2年A組 (24名)、2年B組 (24名)
- オリンピアン : 内田 翔 先生 (水泳・競泳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認 等



- ・内田先生から自己紹介。
- ・運動の時間では面白いと思ったら笑う、分からなかったら分からないと言う等意思表示をすること、「無理、できない」と言わないことを約束して準備体操に移る。

2. 準備体操 等



- ・両手間隔に広がって準備体操を実施。
- ・その場で素早く足踏みをしながらい田先生の手の合図に合わせて動く(上:ジャンプして頭上で手を叩く、下:パービージャンプ、左:体を左に向ける、右:体を右に向ける)。内田先生から考えて体を動かすことの大切さを話す。



3. 主運動 等



- ・ステージ前に班ごとに整列し、内田先生の指示に従って反対側の壁まで往復（ウォーキング、ジョギング、スキップ、サイドステップ、キャリオカステップ等）。
- ・うつ伏せ、仰向けに寝ている状態から笛の合図で起き上がって3歩ダッシュする。仰向けから起き上がる時は手を使わないことをルールとした。
- ・2班ずつ3グループに分かれて人間知恵の輪を実施。

4. まとめ 等



- ・運動の時間を振り返りながら、チームワークの大切さ、協力し合うことの大切さ、頭を使って体を動かすことの大切さを伝え、座学ではオリンピックバリューについて話す予告し、運動の時間を終了。

■ 内 容 : 座学の時間 (2時限、4時限)

1. 自己紹介と授業の目的を確認 等



- ・授業の目的を確認し、北京オリンピックに出場したときの写真を見せながら当時の心境について説明。
- ・自身の経験を交え、オリンピック出場を決意したきっかけを話し、みんなもやりたい事を必死にやってみてほしいと伝えた。

2. オリンピックの価値を伝える 等



- ・オリンピックバリューの意味を運動の時間を振り返りながら説明。
 エクセレンス：ベストを尽くしがんばる心。まずは1番になることを目指し、最後まで諦めずに粘り強く頑張ること。
 フレンドシップ：目標を達成するために友だちと力を合わせる事、友達を助けてあげられる気持ちを持つこと。
 リスペクト：すごいと思ったことや感謝の気持ちを素直に伝えること、相手を称えること。
- ・オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、日常生活にも当てはまると話し、人のために尽くすこと（利他の心を持つこと）の大切さを伝えた。



3. グループワーク 等



発問：どうしたら自分の夢を叶えられるか、どうすれば憧れのヒーローになれるか。

発表：仲間を信じる、何事にも一生懸命取り組む、周りから頼られる人になる、相手のチームも応援する、感謝の言葉を言える人になる、失敗を認める、感情だけで動かない

・内田先生は生徒の発表を受けて、自分の夢・目標を持つことの大切さを伝えた。

4. まとめ 等



・「人生に夢があるのではなく、夢が人生をつくる」という言葉を生徒達に贈り、夢は必ずしも叶うとは限らないが、夢を持たなければ叶えることもできない、夢に向かって諦めずに努力する過程が大切であると伝えた。

・東京2020大会には、ボランティアとして関わるだけでなく、選手として出場を目指してみしてほしい、自分の夢に向かって頑張ってもらいたいと伝え、授業を終えた。



■ 集 合 写 真

2年A組



2年B組





■ 記念品贈呈



■ 証明書贈呈

